

# *Cute Algorithms!*

稲葉 一浩

*at #spro12*

まずは準備運動です！

# *SLOWEST SORT*



Thanks to: @y\_benjo @rng\_58 @hos\_lyric @oxy @xhl\_kogitsune @args1234

# アルゴリズムと言えは！

## ソート！

*Quick  
Sort*

*Bubble  
Sort*

*Merge  
Sort*

*Radix  
Sort*

*Insertion  
Sort*

*Heap  
Sort*

*Shell  
Sort*

# ソートと言えば！

$O(n \log n)$ !

Quick  
Sort

比較ソートの理論限界 [\[編集\]](#)

計算理論において、 $n$ 個のデータのソートは、データの大小比較のみによって行う場合、最悪計算量が最低でも  $O(n \log n)$  必要なことが知られている。

Ins

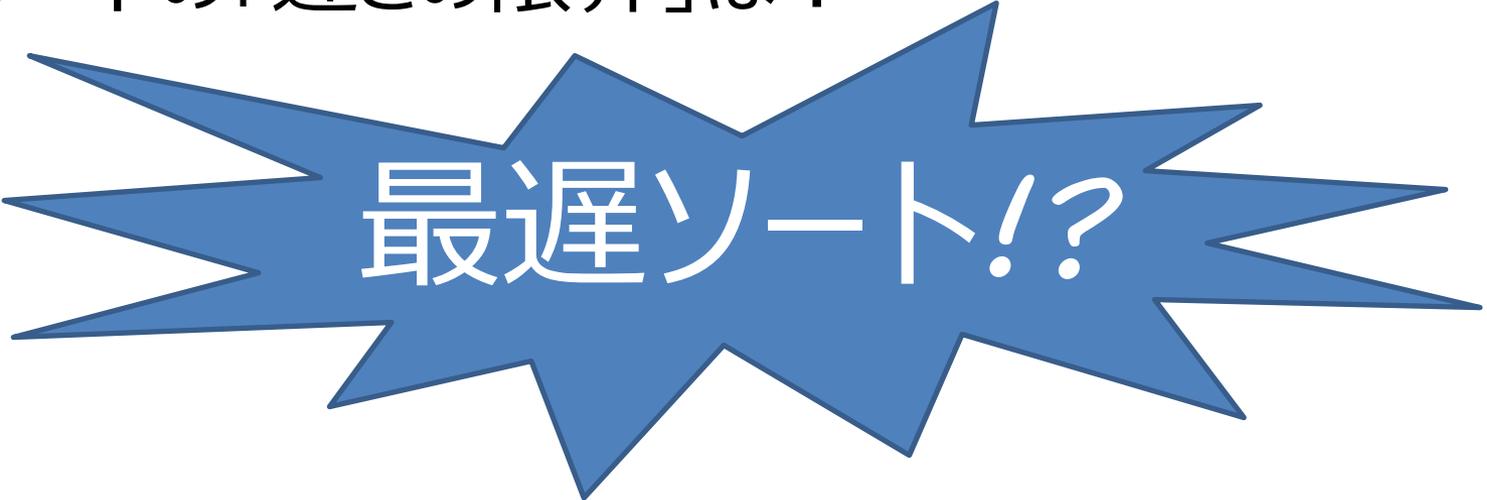
Sort

Shell  
Sort

Heap  
Sort

# では、逆に・・・

ソートの「遅さの限界」は？



最遅ソート!?

一番たくさん大小比較を実行するソート法は？

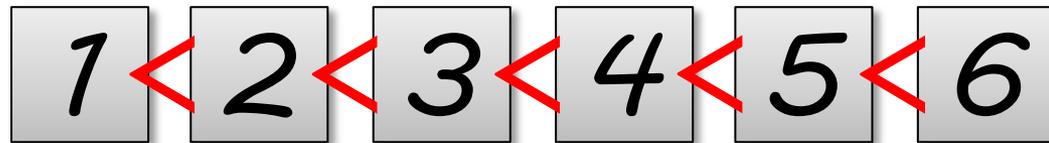
# 「最も遅い」ソート法は？

- よくある答え：**ボゴソート**
  - ランダムに並替→ソートされたら終了 のループ
- 問題点：**ずるい。**
  - 無駄に同じ比較を繰り返しているだけ。
  - それがありなら幾らでも人工的に遅くできる。

「無駄」な比較はノーカウントで、  
一番多く大小比較をするソートアルゴリズムは？

# Bubble Sort

「最悪」  $O(n)$  : 入力がソート済みのとき

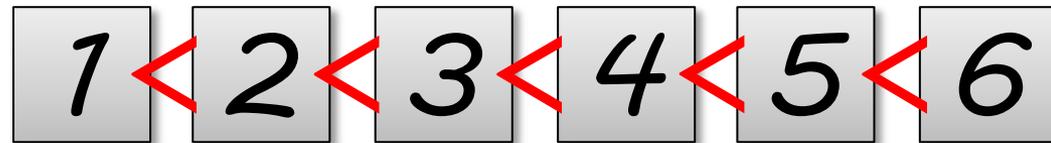


**速すぎる！**

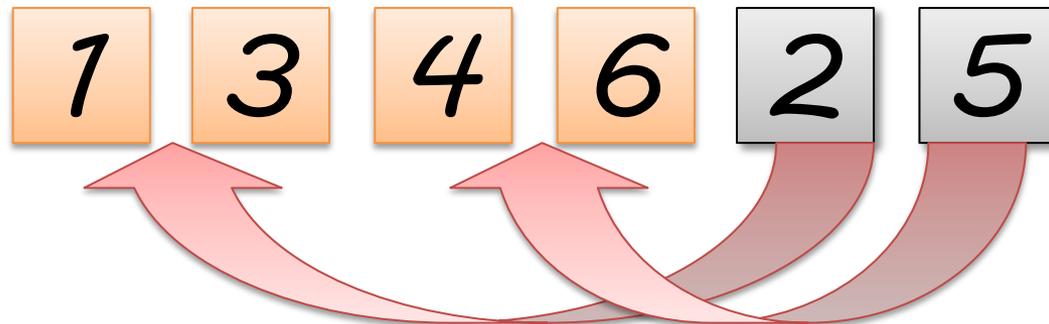
```
function bubble_sort(A) {  
  for(i ← 0..n-2)  
    for(j ← 1..n-1)  
      if(A[j-1] > A[j])  
        swap(A[j-1], A[j])  
}
```

# Insertion Sort

「最悪」  $O(n^2)$



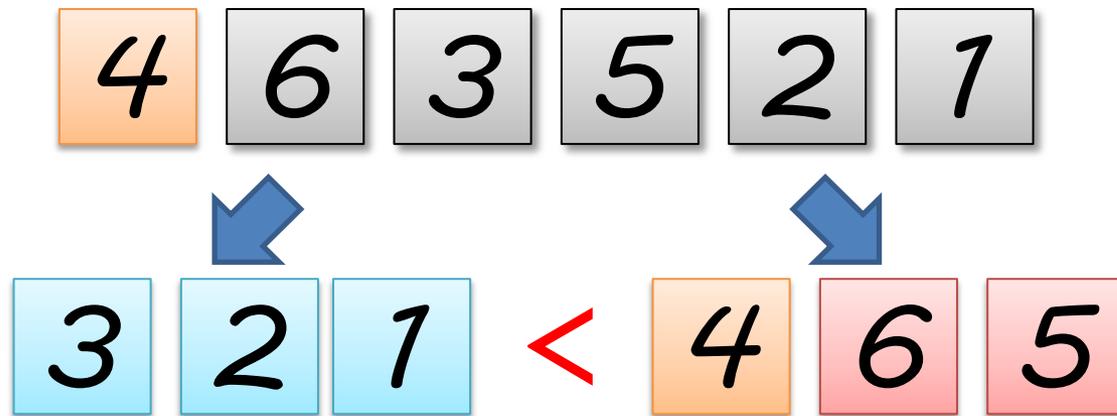
「平均」は  $\Omega(n^2)$  挿入時平均で真中まで動く



# Quick Sort

「最悪」  $\Omega(n \log n)$  **安定して遅い!**

– 証明: Quick Sort は無駄比較をしない。



# 理論限界は？

	<i>Bubble</i>	<i>Insert</i>	<i>Quick</i>	<i>Merge</i>	理論限界
最悪	$n$	$n$	$n \log n$	$n \log n$	$n \log n$
平均	???	$n^2$	$n \log n$	$n \log n$	$n^2$

- どんなに遅くても「平均」は  $O(n^2)$ 
  - $n(n-1)/2$  通りしか比較するものがない
- どんなに遅くても「最悪」は  $O(n \log n)$ 
  - 「最速」の  $O(n \log n)$  とほぼ完全に同じ証明

# 最遅ソート：理論限界を達成

*Quick Sort + Insertion Sort !*

```
function slow_sort(A) {  
  // 最悪  $O(n \log n)$   
  quick_sort(A[0 ... n/2])  
  // 平均  $O(n^2)$   
  insertion_sort(A[0...n])  
}
```

# ここがCute!



- 「逆」の問題でも同じテクニックを応用
  - 「最速」計算量の下限と「最遅」の上限が同じように証明できる。
  - 速度を求めて実用上よく使われる組み合わせ  
*Quick Sort + Insertion Sort*  
が「最遅ソート」にも使える。

# 最遅ソートの応用

- $N$  チームの総当たり戦を行います。
- 強弱にはだいたい順序がつくと仮定します。

「消化試合」（順位に影響しないことが確定している試合）をできるだけ減らす試合順は？

	<i>Tim</i>	<i>Shell</i>	<i>Comb</i>	<i>Stooge</i>
<i>Tim</i>	-	○		
<i>Shell</i>	×	-		×
<i>Comb</i>			-	
<i>Stooge</i>		○		-

非破壊型キュー

# FUNCTIONAL QUEUE



出典: “*Purely Functional Data Structures*”, Chris Okasaki

# Queue



- $push(x)$ : キューに値  $x$  を入れる
- $pop()$  : キューから値を 1 個取り出す
- 入れたのと同じ順番で出てくる

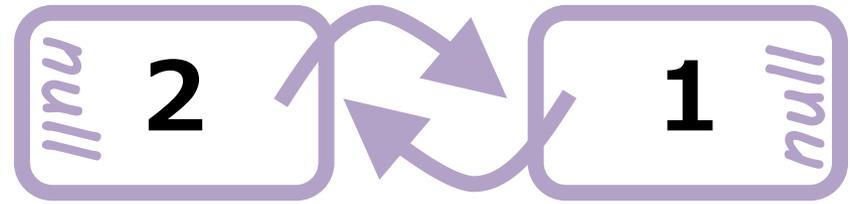
# よくある実装

*Linked List* で  
表現



```
class Queue<T> {  
    class Node {  
        Node prev;  
        T    value;  
        Node next;  
    }  
    Node head;  
    Node tail;  
}
```

# Linked List Queue



push 3



pop



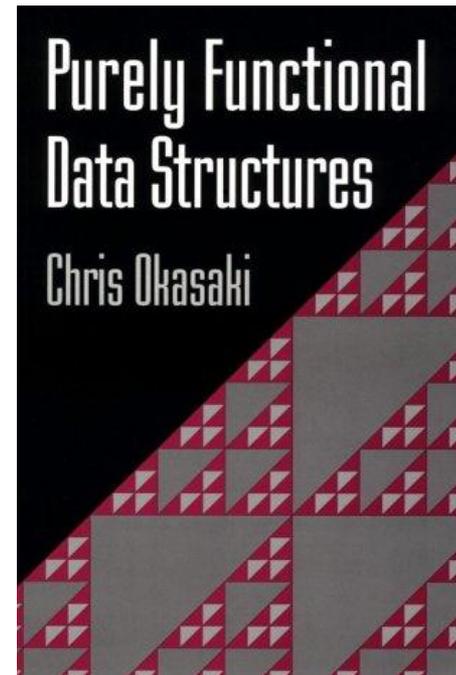
今日ご紹介する

# “Functional Queue”

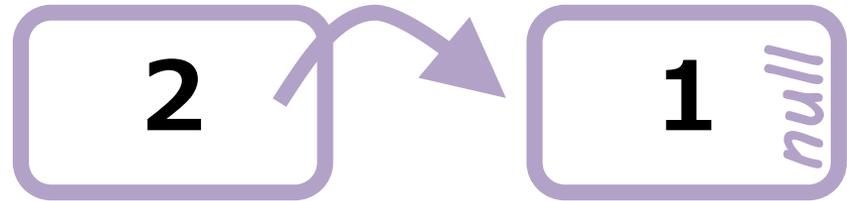
出典: “*Purely Functional Data Structures*”

**「一度作ったデータは絶対に書き換えない」**  
データ構造に関するバイブル

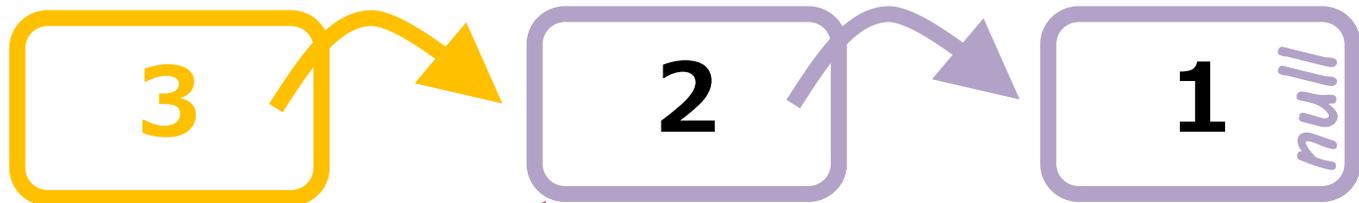
```
class Queue<T> {  
  class Node {  
    const T    value;  
    const Node next;  
  }  
  const Node head;  
  const Node tail;  
  Queue push(T v);  
}
```



# (1) Singly Linked List を使う



push 3

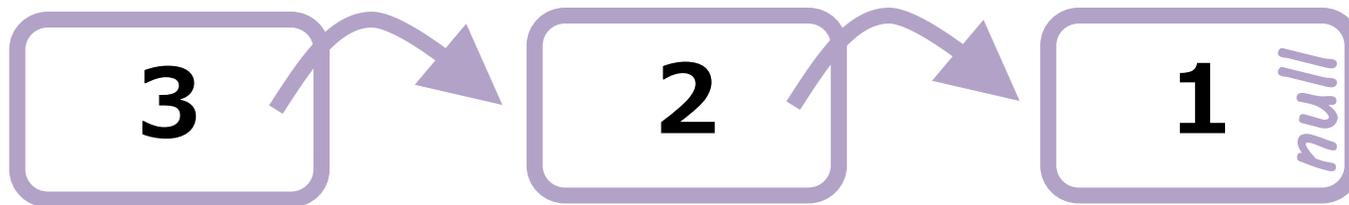


SingleLinkなら  
先頭への追加は  
書き換え不要

push前の状態が  
残ってるので  
参照できる

```
class Node {  
    T    value;  
    Node next;  
}
```

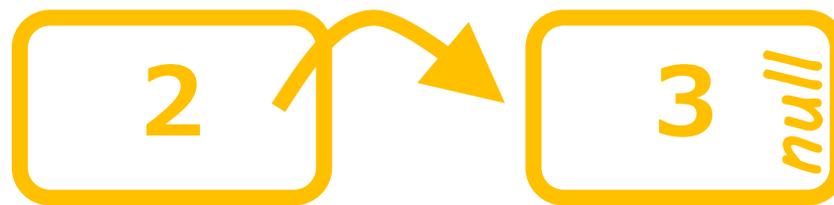
(2) pop?



pop

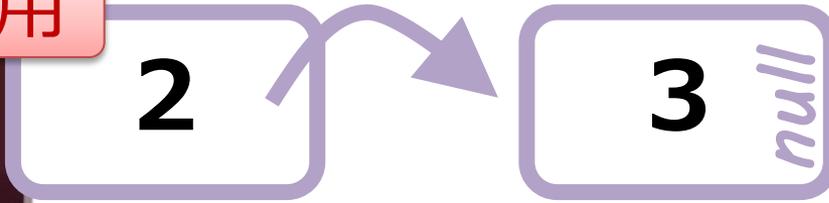


Reverseしたリストを新しく作ってから、先頭Nodeを忘れる



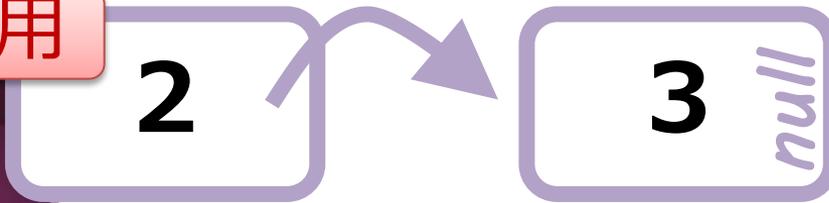
(3) もう一回 *push*? → リストを2つ持つ

pop用



*push* 4

pop用

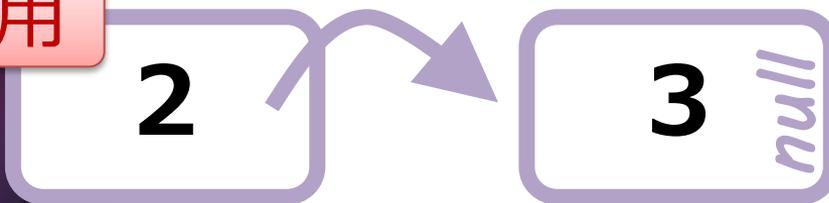


push用

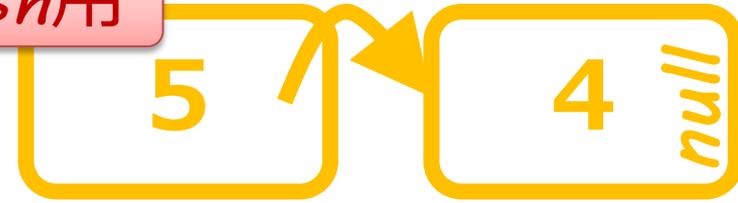


*push* 5

pop用



push用

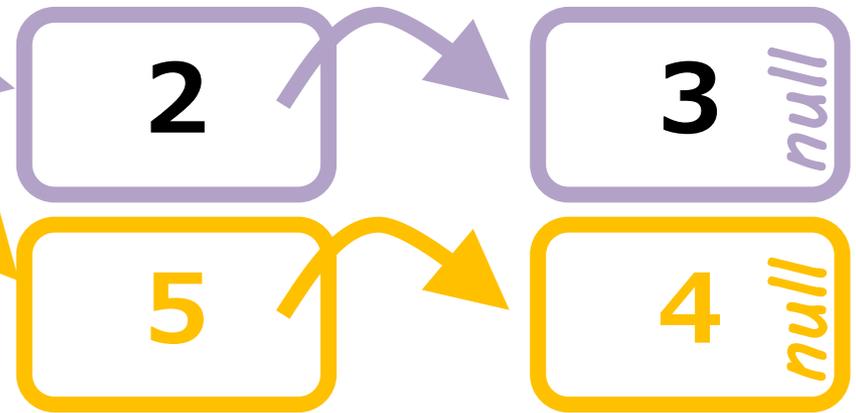


# ここまでの実装

*Singly Linked List* 2個で実装します

```
class Queue<T> {  
    class Node {  
        T    value;  
        Node next;  
    }  
    Node for_pop;  
    Node for_push;  
}
```

*for\_pop が空の時  
pop されたら  
for\_push を reverse*



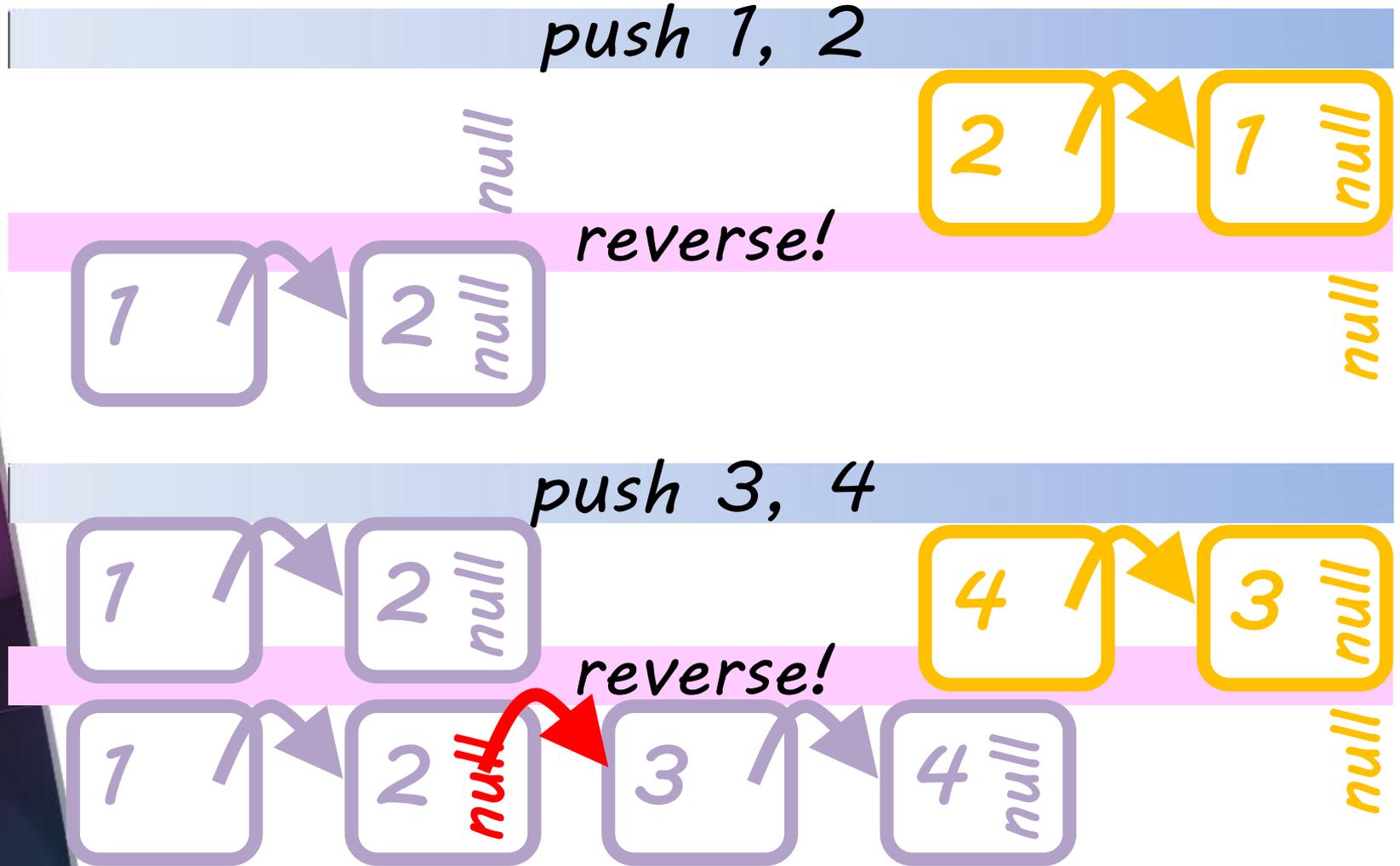
# 問題点

- *for\_pop* が空の時だけ急に *pop* が遅い！

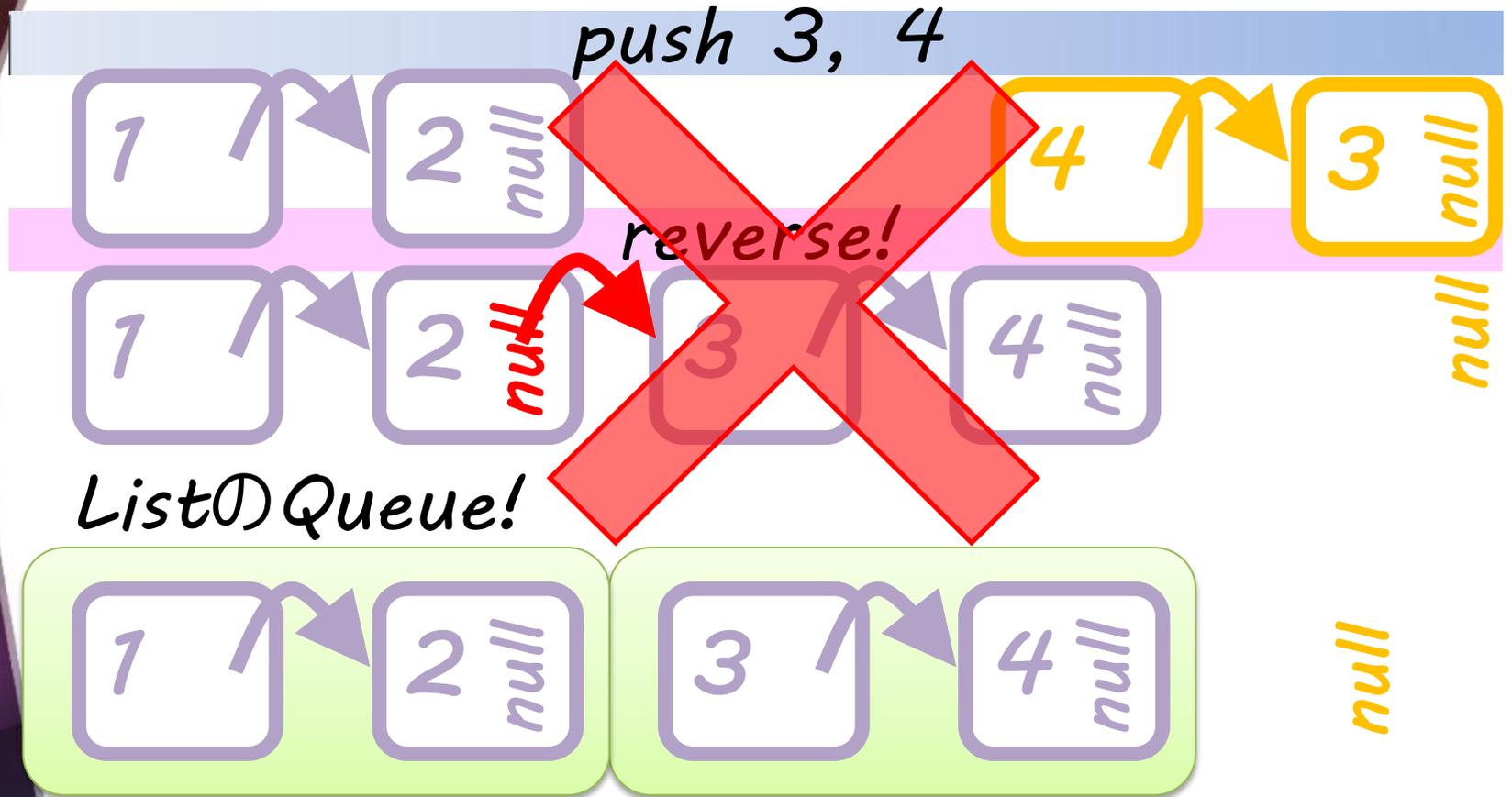
*for\_pop* が空の時  
*pop* されたら  
*for\_push* を *reverse*

# (4) 対策：小分けにreverse

for\_pop が空じゃなくても、こまめにreverse !

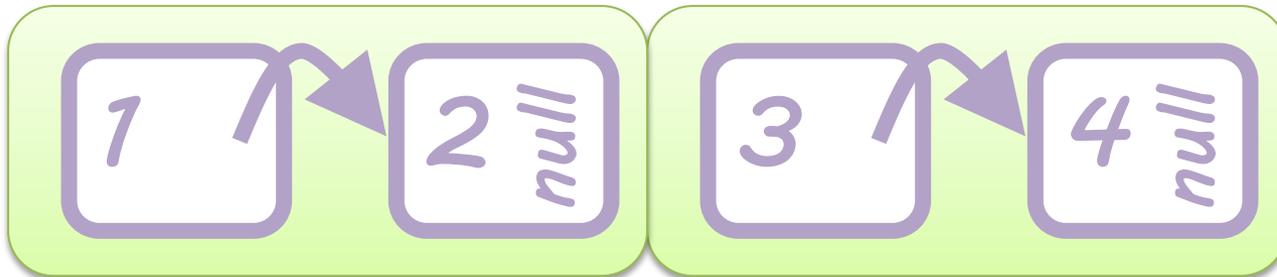


# (5) 小分けreverseをQueueで管理!



# 完成！

```
class Queue<T> {  
    class Node { const T    value;  
                const Node next; }  
    const Queue<Node<T>> for_pop;  
    const Node           for_push; }  
}
```



*null*

# ここがCute!



- “*Bootstrapping*” と呼ばれています
  - OS を起動するための OS
  - コンパイラ をコンパイルするための コンパイラ
  - 同じことがデータ構造/アルゴリズムでも考えられる
    - *Queue* を実装するための *Queue*

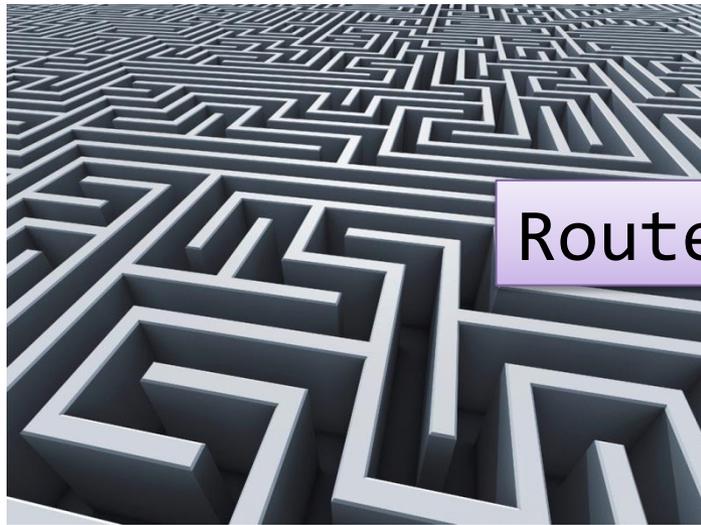
迷路でぶーとすとらっぴんぐ

# *BOOTSTRAPPING IN A MAZE*



# よくあるアルゴリズムの問題

与えられた迷路を通り抜ける  
最短ルートを求めるプログラムを書きなさい



```
Route shortest(Maze m);
```

# ちょっと話を膨らませましょう

与えられた迷路を通り抜ける

最短ルートを求めるプログラムを書きなさい

最短であることの検査ルーチンも書きなさい



```
Route shortest(Maze m);  
bool check(Maze m, Route r);  
Route safe_shortest(Maze m) {  
    Route r = shortest(m);  
    if(!check(m,r)) throw Error;  
    return r;  
}
```

# 失敗例：意味のないチェック

shortest が仮に間違っているとしても  
shortest の結果に *true* を返してしまう

```
Route shortest(Maze m);  
bool check(Maze m, Route r) {  
    return r.len == shortest(m).len;  
}
```

- とはいえ、最短であることをチェックするには最短路を計算するしかなさそう... ?

# Bootstrapping!

元の迷路をそのままshortestに投げるとダメ。  
「小さい」迷路を渡すようにすれば！

```
Route safe_shortest(Maze m);

bool check(Maze m, Route r) {
    // return r == safe_shortest(m);
    もっと“巧く”shortestを使う!!
}
```

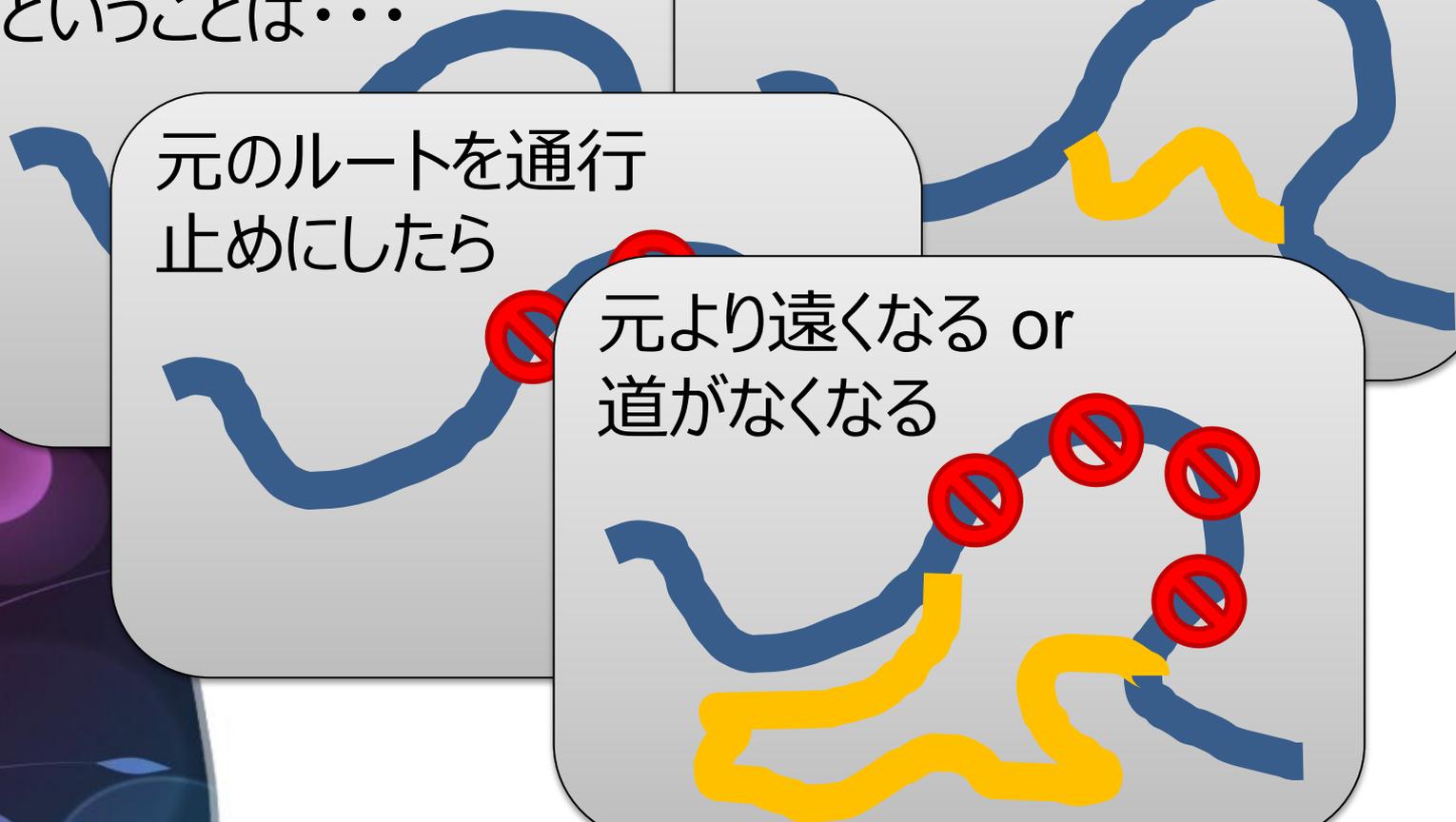
# 最短ルート = 他の道は遠回り

これが最短  
ということは...

こういう近道が  
どこにもない

元のルートを通行  
止めにしたなら

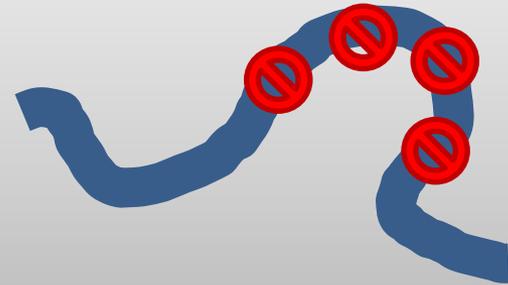
元より遠くなる or  
道がなくなる



# Bootstrapping! (※詳細略) (※条件略)

```
bool check(Maze m, Route r) {  
  for( p,q ← r上の場所のペア ) {  
    m' = mのpからqまでを全て埋め立てた迷路  
    if( safe_shortest(m').len < r.len )  
      return false;  
  }  
  return true;  
}
```

元のルートを通行止め



# ここがCute!



- 間違ってるかもしれないルーチンを、元のルーチンの実装によらずに ※注  
間違いを自分で検出するルーチンに強化!

※注： 今回の手法は、「最短じゃなくてもルートがある時は少なくとも何かルートを返す」ことを暗黙に仮定しています。

正確な実数

# EXACT REALS



出典: “Reallib”, Barnimir Lambov, 2007-

# “誤差なし” 実数計算

[http://wayback.archive.org/web/\\*/www.brics.dk/~barnie/ReaLib/](http://wayback.archive.org/web/*/www.brics.dk/~barnie/ReaLib/)

```
using namespace ReaLib;
int main() {
    Real sq3 = cos(Pi/3-Pi/2)*2;
    Real x    = 1;
    for(int i=0; i<4; ++i) x *= sq3;

    cout << setprecision(5) << x;
    // 9.00000
```



# “*BigDecimal*”との違い

```
getContext().prec = 80
x = Decimal(8)/Decimal(7)*Decimal(7)
print(x)
# Decimal("7.99999...99997")
```

- 精度を最初に指定しないでいい
- いつでも好きな精度まで正確な値が得られる

```
Real x = Real(8)/Real(7)*Real(7)
cout << setprecision(80) << x;
// 8.00000...00000
```



# ここがCute!



- シンプル!
  - こんなものありなの? と思ってしまうくらい  
言われて見れば当たり前
  - でも効果は抜群
- ※ 同じ効果は「無限精度で計算する処理」  
を「遅延評価」することでも実現できます

式のまま計算：その2

# *EXPRESSION TREE*



参考: [http://www.kmonos.net/pub/files/sred\\_full.pdf](http://www.kmonos.net/pub/files/sred_full.pdf)

# Tree に対する Query 言語

SELECT ( $x$ ,  $y$ ) WHERE

$x$  in a AND

$y$  in \* AND

$x.href = y.id$

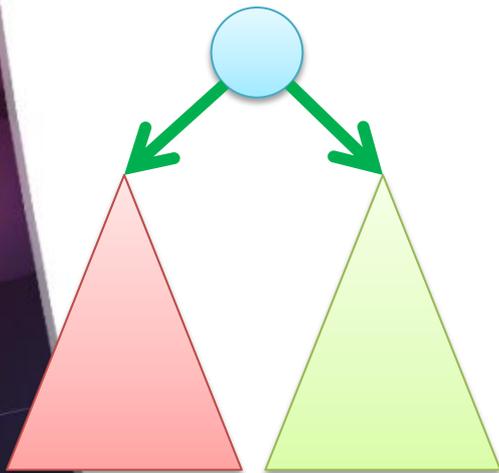
AND

$p > LCA(x, y)$

```
<html>...<p>...  
  <a href="#xx"/>  
  <img id="xx"/>  
  ...  
...</p>...</html>
```

# 実装 (概要)

```
SELECT (x, y)
  x in a AND
  y in * AND
 x.href = y.id
AND p > LCA(x, y)
```



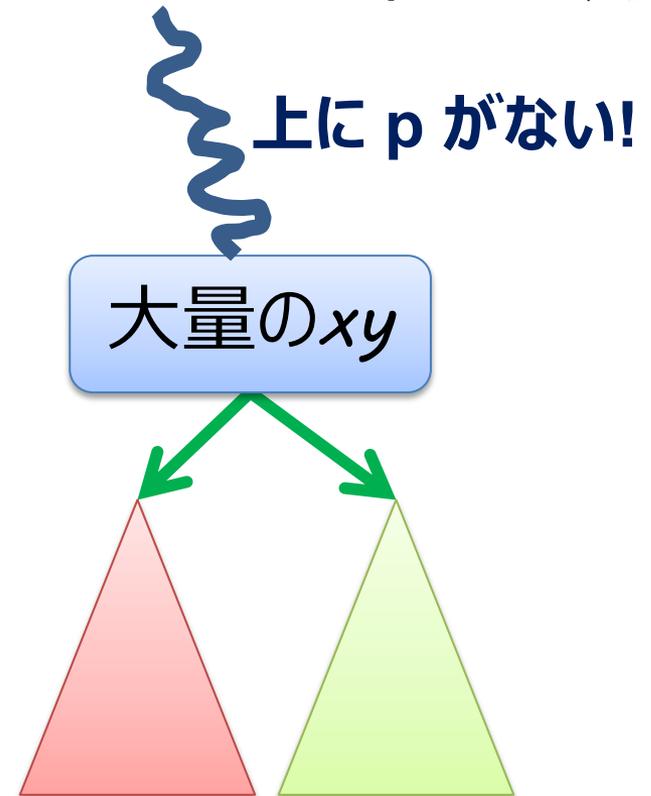
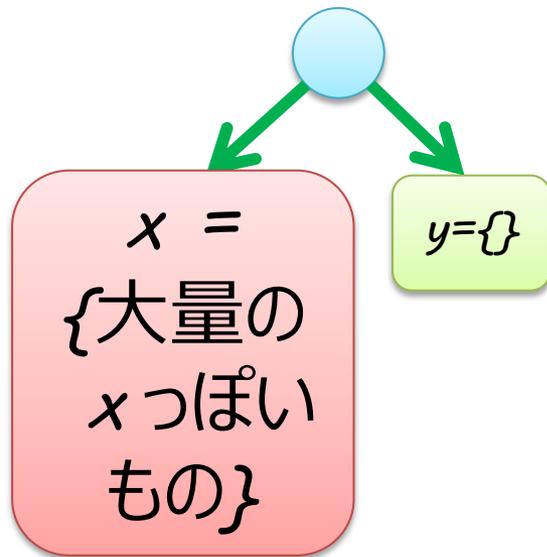
```
Result query(Tree t) {
  L = query(t.left)
  R = query(t.right)
  x  = L.x ∪ R.x ∪
      t.label="a" ? {t} : {}
  y  = ...
  xy = {(a,b) | a ∈ x, b ∈ y, ...}
  ans = L.ans ∪ R.ans ∪
        t.label="p" ? xy : {}
  return {x,y,xy,ans}
}
```

左と右の「xっぽいもの」と  
「yっぽいもの」を組み合わせ、を繰り返す

# 問題点

「最終的に無駄」  
な計算をたくさんしてしまう

```
SELECT (x, y)
  x in a AND
  y in * AND
  x.href = y.id
 AND p > LCA(x, y)
```



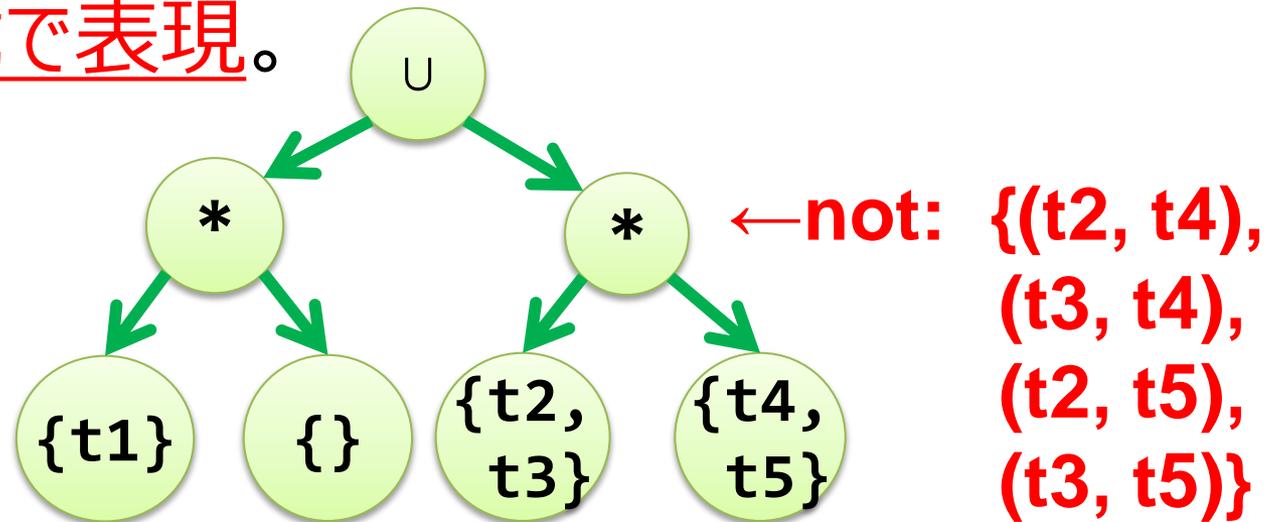
# かっこよくない解決策

*query*関数の構造を変えて、  
木の先祖ノードや、兄弟をたどる、  
「後で無駄にならないか？」の判定を足す

```
Result query(Tree t, INFO inf) {  
    if( ... inf ... ) return  
    inf = update_info(L)  
    inf = update_info(R)  
    if(...) L = query(t.left, inf)  
    if(...) R = query(t.right, inf)  
    if(...) x=... else x=...  
}
```

# かっこいい解決策

集合をいきなり値で計算するのではなく、計算式で表現。



- 単に使われない「実は無駄」な集合は、計算する前に捨てられる
- 空集合との掛け算は、あとで取り除く

# ここがCute!



- アルゴリズムを一切変えないでよい

```
Result query(Tree t) {  
    L = query(t.left)  
    R = query(t.right)  
    ...  
}
```

- データ構造だけを差し替えればよい
- 簡単!



*Thank you for  
listening!*

*- cast -  
Slowest Sort  
Bootstrapping  
Expression Tree*